

## 看護栄養学部のカリキュラム・ポリシー

市民的教養を涵養するとともに、看護学もしくは栄養学の基礎的な知識・技術を修得し、科学的かつ倫理的判断に基づく実践能力を有した専門職業人を育成することを目指します。加えて、人口減少・少子高齢化・医療資源の偏在など島根県が抱える地域課題を踏まえ、人々の健康と生活の質の向上に寄与できるよう教育課程には以下の特色を持たせています。

- (1) 市民的教養と多様な価値観を認める豊かな人間性を涵養するとともに、看護学や栄養学の基盤となる人間を深く理解するための科目群を設けています。
- (2) 島根県で暮らす人々の生活と健康課題を理解し、課題解決・地域創成のための創造的な思考と参画力を修得するために、地域に赴くフィールドワークや実習を系統的に配置しています。
- (3) 人々に質の高い保健・医療・福祉サービスを提供する上で不可欠な多職種連携ができる基盤を形成するために、看護学科と健康栄養学科双方の学生がそれぞれの専門性を理解し学び合うことができる科目群を設けています。
- (4) 看護学・栄養学それぞれの基礎的な知識・技術を修得し実践能力を高めるために、基礎的な科目から応用発展的な科目を系統的に配置しています。
- (5) 変化する社会情勢に対応できる専門職であり続けるために、フィールドワーク・演習・実験・実習などの体験型学習を通して主体性や自己研鑽する力を育む学修機会を段階的に設けています。

## 看護学科のカリキュラム・ポリシー

### (1) 看護を実践する能力の育成

医療の高度化、入院患者の重症化、在院日数の短縮化に伴う在宅療養移行事例の増加等、看護を取り巻く環境は、大きく変化している。そのような環境の中にあつて、医療安全の確保や人権等に配慮しながら複雑多岐にわたる看護業務を的確に遂行できるよう、ヒューマンケアスキルの修得を図る。また、対象を理解し根拠に基づいた的確な臨床判断と看護、健康の保持増進にかかわる支援、健康問題を抱えた人や家族への看護等、保健・医療・福祉施設や地域での実習等を通して看護実践能力の育成を図る。

### (2) 相手を理解し協働する能力の育成

看護職は、様々な健康問題を抱え、多様な価値観をもつ、幅広い年齢層の人間を対象とするため、多様な価値観や立場の違いを理解し、人間の尊厳と権利を尊重する視野の広い柔軟な思考力、深い洞察力、豊かな人間性や高い倫理観が求められる。加えて、的確な看護を提供するためには、患者・家族等の代弁者・擁護者として、傾聴力や説明力が求められ、また、チームとして保健・医療・福祉等の多職種とも円滑に意思疎通がとれることが求められる。このため、市民的教養を身につけることで人間と社会への理解を深め、人権を尊重する意識の涵養につなげる教育を行う。また、コミュニケーション能力や豊かな感性、倫理性を基盤に、人に寄り添い、人間性や個別性を尊重した援助的な人間関係を形成できる能力を養成するとともに、広い視野をもち、保健・医療・福祉等に携わる人々や当事者とその家族、市民等と協働できる能力の育成を図る。

### (3) 地域の特性と健康課題を探究する能力の育成

県内各地での実習や交流を通じて、地域の保健・医療・福祉の現状と課題を認識し、住み慣れた地域における生活の継続性や自立性、意思の尊重等のQOL並びに支援方法を理解するとともに、これらの課題について、批判的・創造的に思考し、その原因や対策を多角的な視点から客観的に分析し、論理的に整理した上で、主体的に発信・行動する能力の育成を図る。社会資源の活用及び保健・医療・福祉に関する法律や制度への理解を深め、政策や組織等の観点も含め多職種間と連携、協働できる能力を育成する